

めざす児童生徒像

つよく やさしく かしい子	
○ つよさ	真の強さをもった子に
○ やさしさ	すべての人にやさしい子に
○ かしいさ	みんなでとことん考える子に

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策	
					教員	児童生徒	保護者				
（学校で設定） 学校重点項目	「学びたい・習いごとがあるあたたかい学校づくり」	生徒指導	①②の項目について、肯定的回答をしている教員の割合が平均90％以上	①	生徒指導の4つの視点を生かした授業づくり、関心・安全な居場所づくりに努めている。	100			・①②の項目についてSSWを招聘した校内研修での学びがあったこと。 教員の意識の高さが分かる。 ・③④の項目について、学年交流の手紙のやりとり、掃除や向本折っ子祭りなどの縦割り活動により児童の絆が強くなった。	・できていることを継続し、より効果のあることを2学期以降も考えていく。	
				②	児童の自己有用感を高め、共感的人間関係を育むように努めている。	100					
				③	児童が「自分にはよいところ、成長したところがある」と実感している。	86.7	93.5	95.6			6.8
				④	相手の気持ちを考えた言動をしている。	66.7	92.4	86.2			25.7
			集計								
	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目					達成状況の分析	改善策	
重点項目 石川県共通	業務改善意識の向上 働き方や業務の改善	業務改善意識の向上	①②の項目について、肯定的回答をしている職員の割合が平均90％以上	①	80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	93.3			・①については、昨年度から行った日課の見直しや会議の効率化等で時間外勤務の削減に取り組むことができたと考え。 ・教職員のアンケートの結果は、目標の90％をどれも超えている。	・企画調整委員会や校務分掌部会で各主任を中心に先を見通した提案・実行を行っていく。	
				②	学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100					
				③	教職員が協働的に働き、仕事に「やりがい」を感じている。	100					

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
					教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目		学校研究	①②の平均が 中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100				①肯定的評価：A83%、B17% ②肯定的評価：A76%、B24% どちらも目標を達成することができた。普段から職員室でも教材研究について話し合う姿が見られる。また、研究授業においても部会以外の先生方も積極的に参観している。	引き続きさらに効果的な方法を探っていく。
				② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100					
				集計						
		「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①②④⑤の割合が、 中間・・・80% 年度末・・・85%	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	92.9	88.5		-4.4	どの項目も教職員・児童共に中間の目標を超えていた。 【教職員アンケート】 ①肯定的評価：A33%、B60% ②肯定的評価：A28%、B57% ③肯定的評価：A15%、B70% ④肯定的評価：A23%、B69% ⑤肯定的評価：A23%、B77% ⑥肯定的評価：A42%、B42% 【児童アンケート】 ①肯定的評価：A37%、B51% ②肯定的評価：A55%、B36% ③肯定的評価：A48%、B37% ④肯定的評価：A57%、B35% ⑤肯定的評価：A54%、B34% ⑥肯定的評価：A76%、B18% しかし、教職員アンケートの結果はA評価よりB評価が高い項目が多かった。 児童においても①の結果はB評価の方が高かった。また、③「自分の考えがうまく伝わるように気をつけて話しているか」という項目に関しては、教師児童共に最も評価が低い。	③2学期初めに児童と「自分の考えがうまく伝わるように気をつけて話しているか」とは、どんな姿なのかを確認し、共通理解する。また、できている児童の姿を教室に掲示・認めることで児童に広める。また、アンケートを取る際に、共通の補足説明を入れる。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	84.6	91.3		6.7		
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	83.3	85.6		2.3		
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。	91.7	93.3		1.6		
				⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	100	88.9		-11.1		
				⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	84.6	94.7		10.1		
				集計						
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②③の平均が90％以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100.0				④カリキュラムマップ、学校力向上ロードマップ、各種取組の提案の目的や内容を職員が理解し、足並みを揃えて実践がなされている。	④学力向上に関する取組の多くは、松陽地区全体で児童・生徒の実態に即して考えられたものだということについて、さらに全職員への周知を図る。
				② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	100.0					
				③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0					
				④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）	92.9					
				集計						
		学習方法	①②の平均が 中間・・・80％以上 年度末・・・85％以上	① 児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている。	100	84.9		-15.1	・GIGA担当や研究主任が中心となって、学び方を自分で選択する授業実践を推奨したことで、職員の意識が向上してきた。 ・全クラスで、学習用端末を用いる家庭学習課題が出されている。アンケート項目の「進んで」という言葉により、肯定的な回答ができなかった児童が1割ほどいた。	・児童の学習用端末の利用頻度は確実に向上している。今後も児童が思考を深める場面で学習用端末を活用できるように、研究主任、GIGA担当教員が中心となって校内研修を実施する。
				② 児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。	100	89.9		-10.1		
				集計						